

令和7年度(2025年度)高校講座実施報告

(10月分)

令和8年4月30日

●愛媛県 県立弓削高等学校(令和7年10月15日)

講演テーマ: 外務省で働くとは

講師: 在ラオス大使館 服部優花 三等書記官



●秋田県 県立秋田高等学校(令和7年10月15日)

講演テーマ: 外務省の役割と外務省での仕事

講師: 大臣官房要人往来支援総括官室 中川紘佑 主査



●長崎県 県立諫早商業高等学校(令和7年10月15日)

講演テーマ:「外交」と外務省の仕事～一外交官から見た「海外で学ぶ・働く」ということ～
講 師: 国際法局経済紛争処理課 佐野村博 課長補佐



●宮城県 仙台市立仙台青陵中等教育学校(令和7年10月16日)

講演テーマ: 外務省の役割と外務省での仕事
講 師: 大臣官房要人往来支援総括官室 中川紘佑 主査



●長崎県 県立佐世保西高等学校(令和7年10月16日)

講演テーマ:「外交」と外務省の仕事～一外交官から見た「海外で学ぶ・働く」ということ～
講 師: 国際法局経済紛争処理課 佐野村博 課長補佐

●神奈川県 県立横浜氷取沢高等学校(令和7年10月20日)
講演テーマ:外交官という仕事 ～日アフリカ外交の現場から～
講師: アフリカ部アフリカ第一課 大谷壮矢 課長補佐



●徳島県 県立徳島北高等学校(令和7年10月21日)
講演テーマ: 日本と世界をつなぐ仕事
講師: 国際法局経済紛争処理課 杉本健太郎 課長補佐



●香川県 県立坂出高等学校(令和7年10月22日)
講演テーマ: 日本と世界をつなぐ仕事
講師: 国際法局経済紛争処理課 杉本健太郎 課長補佐



●長野県 県立諏訪二葉高等学校(令和7年10月23日)

講演テーマ: 外務省の仕事とオーストラリアでの実情

講師: 在メルボルン総領事館 青沼 憧 三等理事官



●神奈川県 川崎市立橘高等学校(令和7年10月23日)

講演テーマ: 外交について

講師: 総合外交政策局国際平和協力室 小日向みなみ 国際平和協力調査員



●茨城県 県立竹園高等学校(令和7年10月29日)

講演テーマ: 日本外交とキャリアの選択

講師: 軍縮不拡散・科学部不拡散・科学原子力課 古本建彦 課長



- 東京都 都立石神井高等学校(令和7年10月29日)
講演テーマ: 外務省での仕事、国際情勢を理解するヒント
講師: 大臣官房国内広報室 大澤暁 首席事務官



- 千葉県 県立松尾高等学校(令和7年10月29日)
講演テーマ: 国際社会に於いての日本の外交政策及び役割
講師: 領事局旅券課 佐々木仁貴 課長補佐



参加者からの感想(抜粋)

- 初めて外務省がどんな仕事をしていてどんな生活をしているかをしっかり学ぶことができた。外務省という言葉はニュースなどではよく聞くが何をしているのかは知らなかったのもっと知りたいなと思った。

●講師が外務省の職員として働くようになるまでの経歴を詳しく教えて頂きとても参考になった。また、言語は様々な場面で使うことがあるので、コミュニケーションに自信を持つことを大切にしたいと思った。

●講師が受験に失敗しても諦めずに外交官の仕事に就いたことがかっこいいなと思った。夜遅くまで働いたり、海外では停電して事務所に一週間泊まるなど過酷な生活もあるのだとも思ったが、思い出にも残ることだと思うのですごく楽しそうだった。

●学生の頃、自分が思っていなかった進路に進み、世界で活躍しているのが凄いと思った。そして、社会人になった今でも仕事のために様々なことを勉強し続けているのを聞いて何歳になっても勉強するのは大切だと思った。

●『自分で考え続けることを止めない』『若いうちに出来ることをしておく』など、今の自分に大切になりそうな言葉が印象に残っている。進路についてちゃんと考えて、そのためになる行動を取るように意識していきたい。

●外務省という存在が遠いような気がして、あまり考えたことがなかったが今回の話を聞いて実際に外務省に入る方がどのような進路や考えのもとで外務省に入ったのかを聞くことができとても興味が湧きました。

●講師が、自分の道は1つではなくて色々な職業に就き、その度に進路を変えてきて、今は外務省で働いていることを知り、自分も進路を1つだけに決めずやりたいことを見つけて生きていきたいと思った。

●私は今まで外務省の仕事を外国との協議だけをする仕事だと思っていたが、それだけではなく外国に日本の文化などを伝えるための仕事もしているのだと知れて良かった。中東情勢についての質問があったが、その回答を聞いて深く納得したと同時に、講演でもあったとおりの物事を多面的に見ることが重要だと思った。

●自分が思っていたよりも外務省で働いている人が多くてびっくりした。情報の取り扱いに気をつけながら仕事をするのはとても大変だと思った。